

令和元年度

公 営 企 業 会 計
決 算 審 査 意 見 書

南アルプス市監査委員

南ア監第8-6号
令和2年8月18日

南アルプス市企業局
市長 金丸一元様

南アルプス市監査委員	望月健二
同	野田正貴
同	花輪進

令和元年度南アルプス市公営企業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、令和元年度南アルプス市水道事業会計、南アルプス市自動車運送事業会計及び南アルプス市下水道事業会計決算書並びに決算附属書類を審査したので、次のとおり意見書を提出する。

目 次

1. 審査の対象	1
2. 審査の期間	1
3. 審査の方法	1
4. 審査の結果	1
5. 審査の概要と意見	
(1) 南アルプス市水道事業会計	2
(2) 南アルプス市自動車運送事業会計	8
(3) 南アルプス市下水道事業会計	13

令和元年度公営企業会計決算審査意見

1. 審査の対象

令和元年度南アルプス市水道事業会計決算
令和元年度南アルプス市自動車運送事業会計決算
令和元年度南アルプス市下水道事業会計決算

2. 審査の期間

令和2年7月9日

3. 審査の方法

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、令和元年度南アルプス市水道事業会計、南アルプス市自動車運送事業会計及び南アルプス市下水道事業会計の決算については、その事業が地方公営企業法、その他の関係法令に基づいて常に経済性を発揮し、本来の目的である公共の福祉を増進するよう運営されているか、決算書類が経営成績及び財政状況を適正に表示しているかどうかを検証するため、決算書、決算附属書類、諸帳簿及び証拠書類等について照合を行い、関係職員から状況を聴取し審査した。

4. 審査の結果

審査に付された決算書、財務諸表及び附属書類は、いずれも地方公営企業法、その他の関係法令に準拠して作成されており、令和元年度における経営成績及び財政状況は適正に表示されているものと認められた。

また、諸帳簿及び証拠書類等と照合した結果、計数も正確で、いずれも符合していると認められた。

5. 審査の概要と意見

(1)南アルプス市水道事業会計

業務実績

水道事業の概要

区 分	単位	令和元年度	平成30年度	対前年差引	対前年比
年度末給水人口	人	70,793	71,003	△ 210	99.7
年度末給水区域内人口	人	71,104	71,317	△ 213	99.7
普及率	%	99.56	99.56	0	—
年度末給水戸数	戸	28,335	28,141	194	100.7
年間配水量	m ³	10,538,333	10,379,718	158,615	101.5
年間有収水量	m ³	8,200,010	7,952,076	247,934	103.1
一日平均有収水量	m ³	22,404	21,787	617	102.8
有収率	%	77.81	76.61	1.20	—
年度末職員数	人	31	32	△ 1	96.9
供給単価	円	141.95	139.27	2.68	101.9
給水原価	円	132.66	133.21	△ 0.55	99.6
一日最大配水能力 (A)	m ³ /日	45,200	45,200	0	100.0
一日最大配水量 (B)	m ³	31,070	32,672	△ 1,602	95.1
一日平均配水量 (C)	m ³	28,793	28,438	355	101.3
負荷率 (C/B)	%	92.67	87.04	5.63	—
施設利用率 (C/A)	%	63.70	62.92	0.78	—
最大稼働率 (B/A)	%	68.74	72.28	△ 3.54	—

令和元年度末の給水状況は、給水戸数28,335戸、給水人口は、70,793人で、前年度と比較すると、給水戸数は、194戸(0.7%)の増、給水人口は、210人(0.3%)の減であった。

水道利用状況は、総配水量10,538,333m³、有収水量8,200,010m³で前年度に比べ総配水量が158,615m³(1.5%)の増、有収水量が247,934m³(3.1%)の増となっている。

また、有収率は、77.8%で、前年度と比べて1.2ポイント増加した。5年前の平成26年度の78.8%と比べると1.0ポイント減少している。

給水収益を有収水量で除した供給単価は、141円95銭で前年度に比べて2円68銭高く、給水原価は、132円66銭で前年度に比べ55銭安くなった。

負荷率、施設利用率は高いほど効率的であるが、令和元年度は、負荷率が5.6ポイント増加した。

一方、最大稼働率は、数値が高いほど施設の効率性は高いといえるが、100%に近い場合には、配水能力に余裕がなく安定給水という観点からは問題となる。

本年度の最大稼働率は、68.7%で、昨年度に比べ、3.5ポイント下降した。

収益的収支

損益計算書

(単位:円,%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
水道事業収益	1,364,487,637	1,303,972,943	60,514,694	4.6
水道事業費用	1,174,248,076	1,143,425,926	30,822,150	2.7
当年度純利益	190,239,561	160,547,017	29,692,544	18.5

令和元年度の水道事業収益は、1,364,488千円で、前年度に比べ60,515千円、4.6%増加した。

また、水道事業費用が前年度に比べ、30,822千円、2.7%増加し、純利益は前年度に比べ29,693千円、18.5%の増加となった。

予算額に対する収支状況は、次のとおりである。

(収益的収入)

(単位:円,%)

科目	令和元年度			平成30年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	対予算現額 収入率	決算額		
水道事業収益	1,375,922,000	1,470,375,120	106.9	1,395,292,579	75,082,541	5.4
営業収益	1,238,818,000	1,351,605,695	109.1	1,268,697,319	82,908,376	6.5
営業外収益	137,104,000	118,748,816	86.6	126,595,260	△ 7,846,444	△ 6.2
特別利益	0	20,609	—	0	20,609	皆増

※消費税含む

(収益的支出)

(単位:円,%)

科目	令和元年度					平成30年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	翌年度 繰越額	不用額	執行率	決算額		
水道事業費用	1,235,456,000	1,209,773,464	0	25,682,536	97.9	1,196,561,254	13,212,210	1.1
営業費用	1,143,320,000	1,089,105,239	0	54,214,761	95.3	1,072,690,736	16,414,503	1.5
営業外費用	90,136,000	120,021,256	0	△ 29,885,256	133.2	123,042,628	△ 3,021,372	△ 2.5
特別損失	1,000,000	646,969	0	353,031	64.7	827,890	△ 180,921	△ 21.9
予備費	1,000,000	0	0	1,000,000	0.0	0	0	—

※消費税含む

資本的収支

令和元年度における決算額は、資本的収入846,764千円に対し、資本的支出は、1,508,570千円になった。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額661,806千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額102,275千円、当年度分損益勘定留保資金437,303千円、及び建設改良積立金122,228千円で補てんした。

資本的収支決算の状況は、次のとおりである。

(資本的収入)

(単位:円,%)

科目	令和元年度			平成30年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	対予算現額収入率	決算額		
資本的収入	1,074,789,000	846,764,232	78.8	459,442,047	387,322,185	84.3
企業債	400,000,000	296,000,000	74.0	294,000,000	2,000,000	0.7
工事負担金	90,987,000	88,433,367	97.2	81,329,400	7,103,967	8.7
出資金	268,429,000	205,255,000	76.5	27,774,000	177,481,000	639.0
補助金	315,373,000	255,407,000	81.0	54,777,000	200,630,000	366.3
固定資産売却代金	0	1,668,865	—	1,561,647	107,218	6.9

※消費税含む

資本的収入は全体的に増加した。飯野新田配水池建設工事等による建設改良費の増加によって、その経費が上水道事業の経営基盤の強化及び資本費負担の軽減を図るための繰出金の対象となるため出資金が著増となった。補助金についても、国庫補助対象事業費の増加によって著増した。全体では、84.3%の増となっている。

(資本的支出)

(単位:円,%)

科目	令和元年度					平成30年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率	決算額		
資本的支出	1,842,115,859	1,508,570,393	135,595,279	197,950,187	81.9	998,526,697	510,043,696	51.1
建設改良費	1,558,330,859	1,224,785,700	135,595,279	197,949,880	78.6	735,785,109	489,000,591	66.5
企業債償還金	283,785,000	283,784,693	0	307	100.0	262,741,588	21,043,105	8.0

※消費税含む

建設改良工事は、水源・配水池の施設関連で、飯野新田配水池建設工事の他、機械及び器具等の更新に伴う取替工事等(7本)を実施した。また、管路関連では、老朽管の布設替工事(15本)、公共下水道事業(16本)、道路改良工事に伴う水道管布設替工事(1本)、畑かん更新事業に伴う水道管布設替工事(1本)を実施した。当年度の水道管布設総延長は、新設2,812m、布設替6,402m、計9,214mとなり、解消された石綿管は1,896mで、残延長は21,468mとなった。

財務内容

財務状況は、次のとおりである。

資産合計

(単位:円,%)

科 目	令和元年度		平成30年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定資産	14,646,191,760	86.8	14,040,257,435	88.8	605,934,325	4.3
流動資産	2,221,388,273	13.2	1,835,820,932	11.2	385,567,341	21.0
資産合計	16,867,580,033	100.0	15,876,078,367	100.0	991,501,666	6.3

令和元年度の資産合計は、16,867,580千円で、前年度比991,502千円(6.3%)増加した。

増加した要因は、固定資産では、飯野新田配水池建設事業、駒場浄水場系管路整備事業、老朽管更新事業の完成によるものである。

流動資産では、前払金は減少し、未収金、現金及び預金が増加している。

負債・資本

(単位:円,%)

科 目	令和元年度		平成30年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定負債	4,627,251,496	27.4	4,601,003,227	29.5	26,248,269	0.6
流動負債	723,337,096	4.3	419,814,526	2.5	303,522,570	72.3
繰延収益	2,583,624,682	15.3	2,317,388,416	14.5	266,236,266	11.5
資本金	6,362,201,796	37.7	6,156,946,796	39.3	205,255,000	3.3
剰余金	2,571,164,963	15.3	2,380,925,402	14.2	190,239,561	8.0
負債資本合計	16,867,580,033	100.0	15,876,078,367	100.0	991,501,666	6.3

各項目の増減については、以下のものが主な要因となっている。

固定負債は、建設改良等の財源となる企業債が、前年度比4,938千円(0.1%)増加し、特別修繕引当金が、前年度比15,000千円(100%)増加している。

流動負債は、未払金が前年度比296,999千円(287%)増加している。

繰延収益は、長期前受金が前年度比343,840千円(10%)増加し、剰余金では、利益剰余金が190,240千円(8%)増加している。

経営内容

収益費用の内訳は、次のとおりである。

事業収入

(単位:円,%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
営業収益	1,245,857,062	1,176,634,415	69,222,647	5.9
給水収益	1,163,953,870	1,107,470,090	56,483,780	5.1
加入金	53,180,000	43,850,000	9,330,000	21.3
他会計負担金	9,218,500	9,452,880	△ 234,380	△ 2.5
その他営業収益	19,504,692	15,861,445	3,643,247	23.0
営業外収益	118,609,966	127,338,528	△ 8,728,562	△ 6.9
特別利益	20,609	0	20,609	皆増
計	1,364,487,637	1,303,972,943	60,514,694	4.6

営業収益は、前年度比で69,223千円(5.9%)増加し、営業外収益は8,729千円(6.9%)の減少となった。営業収益は、給水収益と加入金が増加し、他会計負担金(消火栓設置工事負担金)が減少となった。営業外収益は、芦安簡易水道負担金の減少によるものである。

事業費用

(単位:円,%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
営業費用	1,060,953,852	1,047,578,043	13,375,809	1.3
原水及び浄水費	229,847,836	232,643,641	△ 2,795,805	△ 1.2
配水費	42,150,728	46,629,445	△ 4,478,717	△ 9.6
給水費	64,535,224	61,853,617	2,681,607	4.3
受託工事費	8,215,000	8,536,000	△ 321,000	△ 3.8
業務費	78,087,417	86,638,487	△ 8,551,070	△ 9.9
総係費	123,210,312	108,915,487	14,294,825	13.1
減価償却費	513,814,168	501,111,736	12,702,432	2.5
資産減耗費	1,093,167	1,249,630	△ 156,463	△ 12.5
営業外費用	112,692,284	95,081,048	17,611,236	18.5
支払利息	77,978,129	82,543,367	△ 4,565,238	△ 5.5
雑支出	34,714,155	12,537,681	22,176,474	著増
特別損失	601,940	766,835	△ 164,895	△ 21.5
計	1,174,248,076	1,143,425,926	30,822,150	2.7

営業費用は、前年度比13,376千円(1.3%)増加した。要因としては、取得した資産の減価償却費と特別修繕引当金繰入額の増加により、総事業費は1,174,248千円で対前年度比30,822千円(2.7%)の増加となった。

審査意見

令和元年度末の給水状況は、給水戸数28,335戸、給水人口70,793人で、対前年度比で給水戸数は194戸(0.7%)の増、給水人口は210人(0.3%)の減となった。

水道利用状況は、総配水量10,538,333 m^3 、有収水量8,200,010 m^3 で、対前年度比の総配水量は158,615 m^3 (1.5%)の増、有収水量は247,934 m^3 (3.1%)の増となった。

経営状況の営業収益は、1,245,857千円で、対前年度比では、69,223千円(5.9%)の増、このうち給水収益は、1,163,954千円で、対前年度比は、56,484千円(5.1%)の増となった。

加入金は、53,180千円で、対前年度比では、9,330千円(21.3%)の増となった。

また、営業外収益は、118,610千円で、対前年度比では、8,729千円(6.9%)の減となり、総事業収入は、1,364,488千円で、対前年度比は、60,515千円(4.6%)の増となった。

水道事業費用は、経費の削減に努めているが、施設の老朽化に伴う修繕費等の増加、また、取得した資産の減価償却費の増加により、総事業費は、1,174,248千円で、対前年度比で、30,822千円(2.7%)の増となった。

主要事業は、継続事業として、駒場浄水場系の管路更新工事を、また、当年度から第2期飯野新田配水池建設工事、上今諏訪浄水場内更新工事等を実施している。

今後も、「南アルプス市水道ビジョン・改訂版」及び「南アルプス市水道事業経営戦略」等で計画した事業を確実に履行し、社会情勢の動向を注視しながら、さらなる効率化、健全経営の強化を図り、安定的に安心できる水の供給に努められたい。

(2)南アルプス市自動車運送事業会計

業務実績

平成17年度より自然環境保全のため、県営林道南アルプス線(夜叉神～広河原)及び県道南アルプス公園線(奈良田～広河原)の両路線は、冬期通行止め解除後はマイカー規制となっている。このため、市営バス利用者は、民間の路線バスやタクシーまたは長野県伊那市営バスからの乗り継ぎ客である。

令和元年度の輸送人数は、大人20,167人、小人327人の合計20,494人であり、前年度と比較すると、5,179人(20.2%)減少した。

運行は、南アルプス山岳交通適正化協議会で決定した6月21日から11月4日までの137日間の予定で開始したが、10月の台風19号の被害により、10月18日で終了した。

運行期間中はバス6台により1日4往復運行し、運賃は、広河原から北沢峠間の10.2kmを片道大人1,000円、小人500円で営業した。

輸送実績

(単位:人、個、回、%)

区 分	令和元年度	平成30年度	前 年 度 比 較	
			増 減	増減率(%)
大 人	20,167	25,272	△ 5,105	△ 20.2
小 人	327	401	△ 74	△ 18.5
計	20,494	25,673	△ 5,179	△ 20.2
運行回数	1,572	1,932	△ 360	△ 18.6

収益的収支

損益計算書

(単位:円、%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増 減	増減率(%)
自動車運送事業収益	18,577,265	23,257,507	△ 4,680,242	△ 20.1
自動車運送事業費用	21,284,668	21,399,600	△ 114,932	△ 0.5
純 利 益	0	1,857,907	△ 1,857,907	皆減
純 損 失	2,707,403	0	2,707,403	皆増

決算額は、収益的収入18,577千円、収益的支出21,285千円、当年度純損失2,707千円であった。

予算に対する収支状況は、次のとおりである。

(収益的収入)

(単位:円、%)

科目	令和元年度			平成30年度	増減額	増減率
	予算額	決算額	対予算現額 収入率	決算額		
自動車運送事業 収益	28,132,000	20,073,237	71.4	25,109,547	△ 5,036,310	△ 20.1
営業収益	27,909,000	19,883,140	71.2	25,005,180	△ 5,122,040	△ 20.5
営業外収益	223,000	190,097	85.3	104,367	85,730	82.1

※消費税含む。

(収益的支出)

(単位:円、%)

科目	令和元年度					平成30年度	増減額	増減率
	予算額	決算額	翌年度 繰越額	不用額	執行率	決算額		
自動車運送事業 費用	27,338,000	22,805,969	0	4,532,031	83.4	22,621,051	184,918	0.8
営業費用	26,111,000	21,937,269	0	4,173,731	84.0	22,154,251	△ 216,982	△ 1.0
営業外費用	1,127,000	868,700	0	258,300	77.1	466,800	401,900	86.1
特別損失	0	0	0	0	0.0	0	0	-
予備費	100,000	0	0	100,000	0.0	0	0	-

※消費税含む。

資本的収支

令和元年度における決算額は、資本的収入278,627円、資本的支出は0円となっている。

(資本的収入)

(単位:円、%)

科目	区分	令和元年度			平成30年度	増減額	増減率
		予算額	決算額	対予算現額 収入率	決算額		
資本的収入		0	278,627	0	0	278,627	皆増

(資本的支出)

(単位:円、%)

科目	区分	令和元年度				平成30年度	増減額	増減率
		予算額	決算額	不用額	執行率	決算額		
資本的支出		0	0	0	-	8,700,000	△ 8,700,000	皆減

財務内容

財務状況は次のとおりである。

資産合計

(単位:円、%)

科目	令和元年度		平成30年度		比較増減	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定資産	11,664,200	22.8	13,641,415	26.0	△ 1,977,215	△ 14.5
流動資産	39,564,360	77.2	38,824,618	74.0	739,742	1.9
資産合計	51,228,560	100.0	52,466,033	100.0	△ 1,237,473	△ 2.4

負債・資本

(単位:円、%)

科目	令和元年度		平成30年度		比較増減	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
固定負債	4,918,723	9.6	4,211,723	8.0	707,000	16.8
流動負債	1,666,070	3.3	893,136	1.7	772,934	86.5
繰延収益	0	0.0	10,004	0.0	△ 10,004	皆減
資本金	16,827,068	32.8	16,827,068	32.1	0	0.0
剰余金	27,816,699	54.3	30,524,102	58.2	△ 2,707,403	△ 8.9
負債資本合計	51,228,560	100.0	52,466,033	100.0	△ 1,237,473	△ 2.4

経営内容

当年度の運行については、7月下旬まで梅雨の長雨が続き、県道南アルプス公園線は通行止めとなり、6月の利用者は減少した。9月は高気圧に覆われ晴れた日も多く、台風の影響も少なかったことから前年度比で15%増となったが、10月の台風19号の影響により、広河原から北沢峠間において、甚大な被害が確認されたことにより通行止めとなったため、10月18日で当年度の運行を終了した。

収益費用の内訳は、次のとおりである。

事業収入

(単位:円、%)

区 分		令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
営業収益		18,387,032	23,152,981	△ 4,765,949	△ 20.6
内 訳	運送収益	18,387,032	23,152,981	△ 4,765,949	△ 20.6
	その他の営業収益	0	0	0	-
営業外収益		190,233	104,526	85,707	82.0
内 訳	受取利息	396	367	29	7.9
	補助金	179,696	104,000	75,696	72.8
	長期前受金戻入	10,004	0	10,004	皆増
	雑収益	137	159	△ 22	△ 13.8
計		18,577,265	23,257,507	△ 4,680,242	△ 20.1

事業費用

(単位:円、%)

区 分		令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
営業費用		21,284,668	21,399,600	△ 114,932	△ 0.5
内 訳	運転費	15,900,169	17,445,294	△ 1,545,125	△ 8.9
	車両修繕費	1,242,190	1,182,455	59,735	5.1
	その他修繕費	0	0	0	-
	減価償却費	1,723,918	271,424	1,452,494	著増
	保険料	575,555	500,872	74,683	14.9
	運輸管理費	229,306	305,509	△ 76,203	△ 24.9
	一般管理費	1,613,530	1,465,034	148,496	10.1
	資産減耗費	0	229,012	△ 229,012	皆減
営業外費用		0	0	0	-
雑支出		0	0	0	-
特別損失		0	0	0	-
その他特別損失		0	0	0	-
計		21,284,668	21,399,600	△ 114,932	△ 0.5

審査意見

本市バス事業の運行期間は、南アルプス山岳交通適正化協議会で決定した6月21日から11月4日までの137日間をバス6台の8人の乗務員により1日4往復運行を予定していた。

しかし、10月の台風19号の被害により、10月18日で運行を終了した。また、次年度についても、被害状況から復旧することが困難であると道路管理者である県から示されたため、バスの運行を中止することとなった。

このような状況から、令和2年度は事業の休止を余儀なくされたが、今後林道が開通し運行が始まったら、業務委託など新たな事業モデルへ速やかに移行できるよう検討されたい。

(3)南アルプス市下水道事業会計

業務実績

下水道事業の概要

区 分	単位	令和元年度	平成30年度	対前年差引	対前年比
年度末処理区域内人口	人	35,639	34,915	724	102.1
年度末行政区域内人口	人	71,370	71,602	△ 232	99.7
普及率	%	49.94	48.76	1.18	—
年度末使用戸数	戸	12,317	12,028	289	102.4
年間総処理水量	m ³	3,777,614	3,668,911	108,703	103.0
年間有収水量	m ³	3,579,907	3,580,389	△ 482	99.99
一日平均有収水量	m ³	298,326	298,366	△ 40	99.99
有収率	%	94.77	97.59	△ 2.82	—
年度末職員数	人	10	10	0	100.0

令和元年度末の処理状況は、年度末使用戸数12,317戸、処理区域内人口は、35,639人で、前年度と比較すると、使用戸数は、289戸(2.4%)の増、処理区域内人口は、724人(2.1%)の増であった。

普及率は49.9%で、前年度と比較すると、1.2ポイント増となっている。

下水道利用状況は、年間総処理水量3,777,614m³、年間有収水量3,579,907m³で前年度に比べ年間総処理水量が108,703m³(3.0%)の増、年間有収水量が482m³(0.0%)の微減となっている。

また、有収率は、94.8%で、前年度と比べて2.8ポイント減少した。

収益的収支(公営企業会計移行初年度のため、前年度との増減額・増減率の比較はできない)

損益計算書

(単位:円,%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
下水道事業収益	897,581,934			
下水道事業費用	1,414,503,701			
当年度純損失	516,921,767			

令和元年度の下水道事業収益は、897,582千円であった。

また、下水道事業費用は1,414,504千円であり、当年度純損失は516,922千円であった。

予算額に対する収支状況は、次のとおりである。

(収益的収入)

(単位:円,%)

科目	令和元年度			平成30年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	対予算現額 収入率	決算額		
下水道事業収益	931,332,000	932,880,821	100.2			
営業収益	339,200,000	337,429,546	99.5			
営業外収益	592,132,000	589,347,418	99.5			
特別利益	0	6,103,857	—			

※消費税含む

(収益的支出)

(単位:円,%)

科目	令和元年度						平成30年度	増減額	増減率
	予算現額	決算額	翌年度 繰越額	不用額	執行率	決算額			
下水道事業費用	1,407,541,000	1,431,840,359	0	△ 24,299,359	101.7				
営業費用	1,154,302,000	1,129,277,066	0	25,024,934	97.8				
営業外費用	251,239,000	299,112,287	0	△ 47,873,287	119.1				
特別損失	500,000	3,451,006	0	△ 2,951,006	690.2				
予備費	1,500,000	0	0	1,500,000	0.0				

※消費税含む

資本的収支(公営企業会計移行初年度のため、前年度との増減額・増減率の比較はできない)

令和元年度における決算額は、資本的収入1,895,757千円に対し、資本的支出は、1,870,737千円であった。

資本的収支決算の状況は、次のとおりである。

(資本的収入)

(単位:円,%)

科目	区分	令和元年度			平成30年度	増減額	増減率
		予算現額	決算額	対予算現額収入率	決算額		
資本的収入		2,021,812,000	1,895,757,031	93.8			
企業債		829,900,000	696,200,000	83.9			
負担金		63,417,000	85,051,870	134.1			
補助金		1,126,163,000	1,089,485,153	96.7			
基金繰入金		2,332,000	25,020,008	1,072.9			

※消費税含む

資本的収入は、決算額が1,895,757千円である。内訳として企業債が696,200千円、負担金が85,052千円、補助金が1,089,485千円、基金繰入金が25,020千円となっている。

(資本的支出)

(単位:円,%)

科目	区分	令和元年度					平成30年度	増減額	増減率
		予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率	決算額		
資本的支出		2,030,581,000	1,870,737,023	65,000,000	94,843,977	92.1			
建設改良費		1,184,784,000	1,000,165,362	65,000,000	119,618,638	84.4			
企業債償還金		845,602,000	845,551,653	0	50,347	99.99			
基金積立金		195,000	25,020,008	0	△ 24,825,008	12,830.8			

※消費税含む

建設改良工事は、市内20工区の公共下水道工事管渠布設工事を実施した。当年度の下水道管布設延長は、6,094.39mで、整備面積は24.56haとなった。当年度までの累計下水道管布設総延長は、321,908.82mで、累計整備面積は1,329.6haとなった。

財務内容

財務状況は、次のとおりである。

資産合計

(単位:円,%)

科 目	令和元年度		平成31年度(予定開始貸借対照表)		増減額	増減率
	決算額	構成比	金 額	構成比		
固定資産	27,577,597,433	98.8	27,343,642,608	88.8	233,954,825	0.9
流動資産	337,419,653	1.2	119,119,558	11.2	218,300,095	183.3
資産合計	27,915,017,086	100.0	27,462,762,166	100.0	452,254,920	1.7

令和元年度の資産合計は27,915,017千円で、予定開始貸借対照表と比べ452,255千円(1.7%)増加した。

内訳として、固定資産が233,955千円(0.9%)、流動資産が218,300千円(183.3%)それぞれ増加した。

負債・資本

(単位:円,%)

科 目	令和元年度		平成31年度(予定開始貸借対照表)		増減額	増減率
	決算額	構成比	金 額	構成比		
固定負債	12,634,419,093	45.3	12,806,593,007	29.5	△ 172,173,914	△ 1.3
流動負債	1,052,847,182	3.8	856,322,047	2.5	196,525,135	23.0
繰延収益	11,062,128,438	39.6	10,117,286,673	14.5	944,841,765	9.3
資本金	3,676,650,932	13.1	3,676,667,231	39.3	△ 16,299	0.0
剰余金	△ 511,028,559	△ 1.8	5,893,208	14.2	△ 516,921,767	△ 8,771.5
負債資本合計	27,915,017,086	100.00	27,462,762,166	100.0	452,254,920	1.7

負債資本の合計は27,915,017千円であり、予定開始貸借対照表と比べ452,255千円(1.7%)増加した。

固定負債は172,174千円(1.3%)の減である。

流動負債は196,525千円(23%)の増となっている。

繰延収益は944,842千円(9.3%)の増となっている。

資本金は16千円(0%)、剰余金は516,922千円(8,771.5%)それぞれ減となっている。

経営内容(公営企業会計移行初年度のため、前年度との増減額・増減率の比較はできない)

収益費用の内訳は、次のとおりである。

事業収入

(単位:円,%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
営業収益	310,650,395			
下水道使用料	308,957,995			
その他営業収益	1,692,400			
営業外収益	580,827,682			
特別利益	6,103,857			
計	897,581,934			

営業収益は、内訳として、それぞれ下水道使用料が308,958千円、その他営業収益が1,692千円となっており、合計として310,650千円である。また、営業外収益は他会計補助金308,148千円、他会計負担金が3,204千円、長期前受金戻入269,280千円など合計580,828千円、特別利益が6,104千円、全体として897,582千円となっている。

事業費用

(単位:円,%)

区 分	令和元年度	平成30年度	増減額	増減率
営業費用	1,104,849,233			
管渠費	21,310,375			
総係費	120,042,473			
流域下水道維持管理負担金	209,871,524			
減価償却費	753,624,861			
営業外費用	306,284,848			
支払利息及び企業債取扱諸費	239,884,326			
雑支出	66,400,522			
特別損失	3,369,620			
過年度損益修正損	3,369,620			
予備費	0			
予備費	0			
計	1,414,503,701			

令和元年度の営業費用として1,104,849千円であった。主として管渠費21,310千円、総係費120,042千円、流域下水道維持管理に係る市町村負担金209,872千円などであった。また営業外費用の額は306,285千円となっており、主として企業債償還利子の支払利息239,884千円、特別損失として下水道使用料及び受益者負担金の不納欠損など3,370千円を加えた費用の合計は1,414,504千円であった。

審査意見

令和元年度末の普及状況は、年度末処理区域内人口35,639人、行政区域内人口71,370人で、普及率は49.9%、対前年度比で年度末処理区域内人口は724人(2.1%)の増、行政区域内人口は232人、0.3%の減となった。普及率は49.9%で、供用開始した下水道加入率は88.8%となった。

下水道利用状況は、汚水処理水量3,777,614m³で、対前年度比は108,703m³(0.3%)の増となった。

経営状況の営業収益は、310,650千円、このうち下水道使用料は308,958千円となった。

また、営業外収益は、580,828千円となり、総事業収入は897,582千円となった。

下水道事業費用は、総事業費1,414,504千円で、下水道事業収益と下水道事業費用の差額は、516,922千円の欠損となった。

主要事業は、公共下水道管渠布設工事(20本)、舗装本復旧工事(8本)を実施している。

下水道事業は、収入の半分近くを一般会計からの繰入金に依存しており、多額の企業債償還金も抱えている状況から、将来に向けて経営基盤の強化を図り、長期的・持続可能な経営による健全経営とするため、平成31年4月1日から地方公営企業法を全部適用し、公営企業会計へ移行した。

現在、下水道普及率向上を目指し、汚水処理区域の拡大を図っているが、下水道事業を取り巻く環境は益々厳しくなっていくと予想される。下水道サービスを維持していくためには、未加入者の加入推進とともに、下水道使用料及び下水道受益者負担金の収納率の向上を図り、収入の確保に努められたい。

今後は、当年度から策定している公営企業としての中長期的な経営の基本計画である「南アルプス市下水道事業経営戦略」に基づき、財政運営の効率化と経営基盤の強化に努められたい。